



せせらぎ Message 6



この一年を振り返って

「こだいら 水と緑の会」

代表

馬場政孝

この一年を振り返ってみた時に、この会の「形」が段々はっきりしてきた一年であったように思う。この会のスタートに際して、私達が拠り所としたのは、用水路が国から市に無償移譲される絶好のタイミングであったこと、及び小平市に「用水路活用計画」なるプランが存在したことであった。「これからは用水路だ！」ということだけははっきりしていたわけであるが、具体的にどう切り込んで動きを作り出していったらよいのか手探り状態であった。

そうした中で、昨年末に『用水路 昔語り 第一集』がまとめられたのは大きかった。これは大きな反響を呼び、増刷に次ぐ増刷となった。さらに今年2月の高橋 裕氏の講演会の成功も本会を対外的にアピールする上で大きな意味があった。講演会というのは、講演内容の充実と共に、動員というのが成否のポイントとなるのであり、国土建設学院の応援がなければ、あそこまでの盛り上がりは見られなかったと思われる。11月の講演会でも同様のことが言える。本会の活動を多面的に支えて大きな力となっている同学院に対して、改めて感謝申し上げたい。

さて、本会の「形」に直接繋がる問題が、7月に動き出した「延命寺公園（仮称）」の検討会であった。都の公園整備に合わせて、用水路をどのように生かした公園にするかというものであるが、本会では議論した結果を国土建設学院の中野猛夫先生に依頼して設計図にし、提示した。検討会は数回行われたが、最終的には本会の提案を大方採用したものとなり、現在都との交渉に入っている。

このような結果となる過程の中で、用水路整備の在り方について、私達も多くのことを学んだ。作為を排して、出来るだけ自然な姿を目指す、このことに尽きると言えよう。

10月には『用水路 昔語り 第二集』が出され、現在第三集に向けて弾みがついている。今後の課題として重要と思われるのは、

- ①用水路をポイントに於いてどう整備するかという全体的プランの作成
- ②水源の確保の問題
- ③小平での教育とどう関わっていくかという問題
- ④良質な水辺景観についての実地調査

などが考えられる。

私達の会は、そもそも用水路に焦点を充てて活動するものであるが、その範囲は「水と緑に関わる多くの問題」に否応なく広がってゆかざるを得ない。活動量が限定される中で、どこまで広げてよいのか、難しい問題である。一つ一つ対応する中で、会の「形」ももっとクリアーになっていくであろう。



1、「水と緑の講演会」 11/16 (日) 於：中央公民館ホール

講師：東京農工大学環境生態システム学群 亀山 章 教授

「自然と共生する街づくり」

参加者60名。「自然と共生するには、自然の歴史を知ることが大切」ということで、多摩地区の自然の変遷を明治から最近までの地図で具体的に示され、多摩地区が昔は一面の桑畑であり、昭和30年代から都市化が急速に進んだことがよく理解出来た。また、その土地にある自然を守ることの重要性を指摘され、自然保全の立場での新しい視点を学ぶことが出来た。現在繁華街となっている所でも地名の由来があり、それが昔の自然環境を物語っているという話は来場者の感嘆を呼び、面白いものでした。

当日入り口に展示した写真による多摩地区の水辺景観の案内も好評を博し、視覚に訴える効果の大きさを痛感しました。

2、延命寺公園統報

延命寺公園（仮称）の整備案は、当会の意見を大幅に取り入れ、出来るだけ自然に近い整備とコンクリートを使わない基本方針でまとまりました。これは当会の実績で、多くの方々や会員による協力の成果だと思えます。これからのポイント整備に向けて、会としてのスタンスを示せたことは大きな意味があります。行政側が市民の声を反映させた良い例ともなります。第二段階として、整備案を東京都に採用してもらわねばなりません。10月下旬、小平市は東京都に対し、小平市案として整備案を提示、説明し、現在東京都は検討中です。来年3月までには東京都から小平市に回答があり、当会も報告を受けます。その結果の如何によって対処の仕方（要望・請願等）を協議し、行動に移します。

3、小平霊園さいかち産請願のその後

11/6日、東京都から請願採択後の報告を受けました。当会からの請願の趣旨を受け、東京都は当初の計画を、小平霊園内の雨水浸透の整備を強化するものに練り直しました。予想以上の成果に喜んでいます。小平霊園は、まとまった大きな雨水浸透施設として、内外から着目される場所となるでしょう。詳細は後述。



4、あじさい公園について

公園の紫陽花の剪定作業に公園ボランティアとして会員5名が7月から参加。一般の方、市職員と共に真夏汗まみれとなりながらも、紫陽花の木質化した茎や絡み付いた蔓などの除去作業を週2回続け、11月下旬一段落しました。来年3月に紫陽花の移植や防犯上から公園内の道作りの作業を再開します。公園ボランティアの仕事は今後も継続し、数年掛りで魅力的な公園にしたいと考えています。また、ボランティアの人々の無償の尽力を後押

しする形で、当会も公園南西部の、現在暗渠となっている用水路の開渠化と橋を架けることを要望する方針です。本件でFM西東京に生出演。

花いじりの好きな方、公園造りに関心のある方、貴方の手でであじさい公園を小平の名所にしませんか。お手伝いして下さる方を募集しています。是非ご一緒に。

5、「ふれあいウォーク」について

毎月第三土曜日に実施している「ふれあいウォーク」も、当会の行事として定着してきました。市内用水路の東部地区(花小金井駅南口～小平ふるさと村～延命寺公園～あじさい公園～鈴木町郷水公園～鈴木園前～武蔵野在～平野田中庭～中央公園～藍ノ台駅)と西部地区(東大和市駅～野火止緑道～上水小橋～たぬき塚～影舞の谷緑道～小川一丁目保存緑地～竹内家の大ケヤキ～小川寺～小平神明宮～野火止用水～東京工業用排水園)の二つの散策コースがあります。貴方のまだ知らない小平を発見することが出来ます。東部地区では『武蔵野荘』の庭園が楽しめます。

6、「用水路 昔語り 第二集」発行

9件、11名分の原稿を収録した第二集を発行しました。どの方の話も面白く、立派な郷土資料になっています。市内各小学校・図書館・公民館・地域センターに設置。近隣他市の中央図書館にも設置。1部 200円で発売中。



7、イベント参加

『青らんぎ祭り』・・・参加 7月 民間主催の祭りですが、テーマは環境です。

『えんとつフェスティバル』参加 11/22 小村大焼却場組合と地元中島町自治会等主催。
市内西部地区の新しい行事として定着させたいです。

8、その他

当会は、「ハッ場ダム建設反対」運動を支援しています。詳細はチラシをご覧ください。

今後の活動予定

12/12 定例会及び忘年会

1/ 9 公園緑地課との新春放談 /17 「ふれあいウォーク」西部コース(小平神明宮で初詣で) /23 1月定例会

2/ 7 「水と緑のミニ講座」 13:00～15:00PM 於小平下水道館
講師 飯田 輝男氏(多摩環境事務所勤務)

「多摩地区の水循環」(仮称)

入場無料

/21 「ふれあいウォーク」東部コース /27 2月定例会

3月 第一回 総会

山が近くにあり、滔々と流れる七つの川のある街に育った私は、山も川もない小平に住んで、寂しく物足りなさを感じていました。けれど広々とした畑や樺の大木、玉川上水の長く続く緑の帯、その深い所を流れる水。さらに、幅1m足らずの用水があちこちに流れていて心の安らぎを感じています。

ところが、畑や原っぱが小さな家やマンションに化け、樹木は根元から容赦なく切り倒され、緑が減り、変わり行く街に悲しく腹立たしく思っていました。

『こだいら 水と緑の会』に入会して一年。「用水路 昔語り 第二集」の挿絵を、乞われて担当しました。読んでみると、一昔前の、農家の方々の厳しい生活や行事・楽しみ、子供の遊び。用水の水を飲み、米を研ぎ、野菜や鍋釜を洗い、田畑を潤していたこと。また、用水の水で伝染病が流行った話、水利権、ヤクザの話、江戸時代の話など語られた方々の記憶の良さと、100年も経たない間に起こった都市化への変化の大きさ、昔の時代に立ち寄ってみたいくなりました。苦勞して描き上げた私の絵は、幼稚で恥ずかしいけれど、この素敵な一冊の本に参加出来たことは、私にとって喜びになりました。一人でも多くの方に読んで頂けたらと願っています。



雨水浸透のモデル地区へ—小平霊園さいかち窪

田中 清子

今年6月、都議会で採択された『小平霊園さいかち窪の湧水復活に関する請願』が、来年度（平成17年）より事業化される見通しとなりました。去る11月6日、請願を一緒に提出した「東久留米の水と景観を守る会」の会員と当会員は、小平霊園内管理事務所で都の公園緑地部の担当者より「さいかち窪調整池委託事業」についての中間報告を受けました。

- ①小平霊園内の4分割化された雨水排水経路の3ブロックの雨水は、まとめて「さいかち窪」に流入させることとする。残りの1ブロック分は東村山市の出水川に排水する。これまで1ブロック分だけだった「さいかち窪」への雨水の流入量は従来の3倍に増加する計画へと変更されることになった。
- ②霊園内の道路の舗装を全て浸透性に切り換える。
- ③浸透枳を66基新設する。
- ④地下水位を計測するための観測用井戸（深さ15m）を掘削する。
- ⑤以上を事業化するために業者に調査を発注した。

⑥事業は平成17年度に始まり、継続する。

⑦以上は平成12年度雨水排水基本計画の見直しである。

私達市民団体から提出された請願が、このような事業計画として策定されたことは予想以上の驚きであり、良かったなぁという喜びがあります。小平霊園の「さいかち窪」は調整池としての位置付けが明確になり、これまで大部分が流域下水道に排水されていた雨水は、「さいかち窪」に一旦集めて浸透させ、黒目川へと流入させる計画に切り換えられたわけで、都の雨水排水対策の画期的転換のモデルとなると評価出来るでしょう。



ただし、現行の下水管は30mm/h対応にしかないので、30mm以上の集中豪雨の際には、オーバーフロー分は下水道へ排水されるので、霊園内全ての雨水を浸透させることにはならないのが、少し残念です。将来的には、道路の舗装や構造を変えて保水性を高め、霊園が一大雨水浸透基地に近付くことを期待しましょう。

もう一つ見落としてならない事実は、市の下水道会計へのプラス効果です。汚水私費、雨水公費負担で成立している下水道予算の中で、自治体が負担する雨水負担金は多額で財政を圧迫している現状があります。霊園内の雨水を流域下水道に流さないことになれば、負担額は削減されるはずですが、たとえ小額であっても自治体予算へのプラス効果を評価出来るのではないのでしょうか。雨水を浸透させることによって地域水循環を回復出来るばかりでなく、下水道への負担が経済的にも構造的にも軽減されることは、一石三鳥の効果です。「さいかち窪」の雨水浸透は大いなる希望だと思います。

もう一つ見落としてならない事実は、市の下水道会計へのプラス効果です。汚水私費、雨水公費負担で成立している下水道予算の中で、自治体が負担する雨水負担金は多額で財政を圧迫している現状があります。霊園内の雨水を流域下水道に流さないことになれば、負担額は削減されるはずですが、たとえ小額であっても自治体予算へのプラス効果を評価出来るのではないのでしょうか。雨水を浸透させることによって地域水循環を回復出来るばかりでなく、下水道への負担が経済的にも構造的にも軽減されることは、一石三鳥の効果です。「さいかち窪」の雨水浸透は大いなる希望だと思います。

私達の見た小平

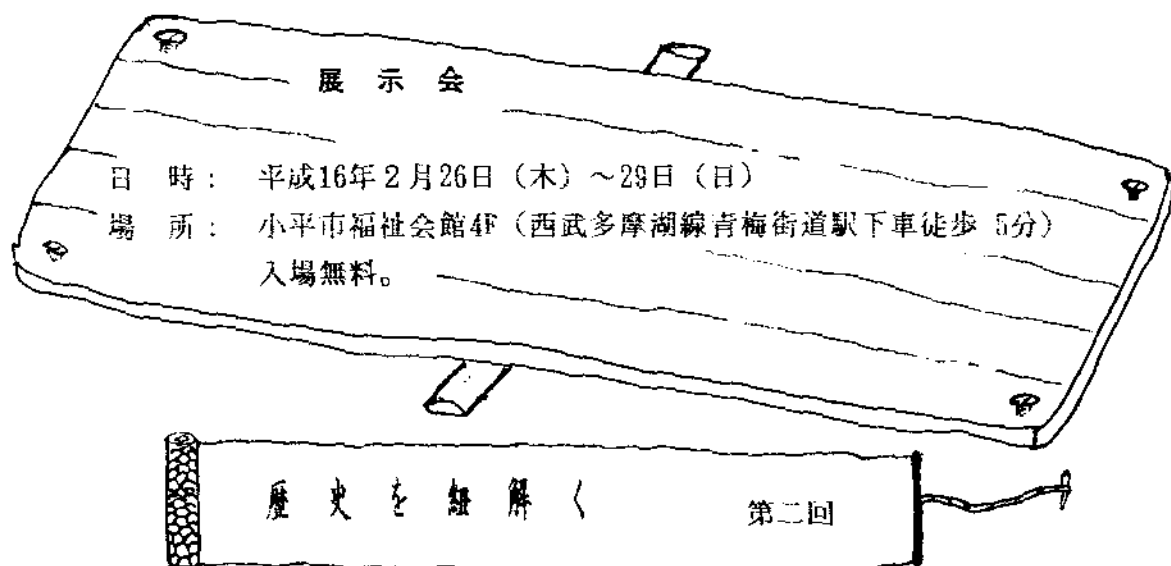
国土建設学院

当会の法人会員に国土建設学院がいます。よく玉川上水で測量実習をしている生徒さん達をみかけますが、全国からいらしているとのこと。そんな彼等の目には小平の地がどんなに写っているのでしょうか。紹介します。

A・S(女、講師)：小川を挟む上手草の 流れに映えて揺れ動く
静を動に演出する 水の仕草の面白さ。

U・Y(女、講師)：導かれた小川(堀)の両上手の 芹を摘んだ思い出の印象を
小平の用水風景に見ることが出来ました。

国土建設学院造園緑地工学課の生徒さん達の卒業製作作品の展示会が下記の日程で開催されます。テーマは『小平』で、市内のいろいろな場所に着目し、自由な発想で街づくりを模型化しています。斬新なアイデアに溢れた作品ばかりです。是非ご覧下さい。



前回は小川村と、その開祖小川九郎兵衛の記述を紹介しました。今回は小川村の施設です。

「橋梁

橋三ヶ所 砂川村境ヲ通スル玉川上水ニ架セリコレヲ小川橋ト云其餘ニヶ所共ニ御普請ノ橋ニテ何レモ長サ五間若クハ六間幅一間許」

「水利

多摩川上水 西方砂川村ヨリ入り小川新田ニソソケリ

野火止用水 コレモ西方砂川村境ヨリ入レリコノ堀ヲモッテ隣村ノ境トナセリ一名伊豆殿堀ト称スルハ松平伊豆守信綱カ奉行シテ作リシ故ノ名ナト云」

「神社

神明宮 除地一町六段六畝廿歩村内ノ鎮守ナリ本社六尺四方南向拜殿二間半ニ五間鎮座ノ初ヲ詳ニセス神体白幣例祭九月十九日神主ハ郡内殿ケ谷村阿豆佐美天神ノ神主宮崎某配下宮崎加賀トイヘリ」

「寺院

小川寺 除地三町三畝醫王山ト号ス臨濟派江戸市ケ谷月桂寺ノ末開山碩林貞享三年正月示寂開基ハコノ村ノ里正小川九郎兵衛明暦年中ノ起立ナリシユヘリ表門ヲ入テ左ノ方ニ鐘樓アレトモ新鐘ヲ掛タレハ銘ニノセス」

小川九郎兵衛が起立したことや、現在市の文化財指定を受けている鐘樓の記載があります。

小平霊園さいかち窪に関連した記述もあります。

「久留目川 小名倉英久保ヨリ湧出シ村（柳窪村）ノ北ノ方ヲ流レ下里村ニ至ル村内ヲフルコト六町許川幅凡六町」

皂莢さいがけはマメ科の落葉高木。山野・河原などに自生、しばしば栽培される。茎・枝に多数の刺があり、葉は複葉。夏、緑黄色で四弁の細かい花を開く。秋、長さ30cm余りの莢を垂下する。果実はサポニンを含み、洗濯用、または生薬せいやくの皂角子として利尿・去痰剤。若芽は食用。材は器具材・細工物などとする。

70年代の『平安窪』の思い出

橋村 悟

1966年（昭和41年）、僕は学園東町に生まれました。育った所、実家も学園東町ですが、すぐ裏は小川2丁目や仲町です。そうです。ここは『平安窪』と言われてきた場所だったのです。物心つく頃、近所の人達や祖父から、ここは小平でも珍しい窪地の一つであり、ダイダラボッチが通った足跡であるとか、僕が生まれる直前までは、晴天の日でも突如として水が湧き出し（野水と呼ぶと言うことも教わりました）、浸水騒ぎになったということをよく聞かされたのを覚えています。

僕の成長期（1970年代）は小平の都市化とリンクしていました。急激な都市化により、今まで梨畑や栗畑に浸透していた水が、全てアスファルト舗装に覆われた結果、降った雨水があらゆる方向から一点集中でこの『平安窪』に流れ込みました。おかげで、子供ながらに門の所に一生懸命積んだ土嚢を越えて、泥水と化した雨水が実家に流れ込み、台風や秋雨の時期はよく床下浸水に悩まされました。特に、1974年（昭和49年）に来襲した台風による大雨の際は、よっぽど焦っていたのでしょうか、母が買ったての敷き布団を土嚢の上に泣く泣く積み、ようやく浸水から逃れたということもありました。

『平安窪』ではありませんでしたが、この当時、僕が通っていた保育園の周辺や小学校の入り口も、大雨が降ると「沼」や「湖」の様相を呈していました。特に保育園近隣はよく浸水していました。そんな時は保育園の先生が、小さな舟に乗って高台まで来て、「今日は休園」とおっしゃっていました。

『平安窪』を始めとするこれらの小平では珍しい窪地も、70年代後半に都市下水道が敷設され、浸水で苦しめられることも無くなりました。

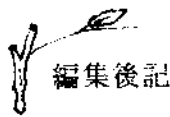
ところで、話題がやや前後してしまいましたが、1979年（昭和54年）、下水道完全整備の後、『平安窪』に当時あった駐車場（現在はありません）から、急に水が湧き出したのを見



た記憶があります。近所の人達が何人が集まり、「これはただ単に水道管が破裂しただけのことだろう。」という声もあれば、「否、これはまさして野水だ。間違いない。それにしても実に久し振りに見たな。」という人もいました。今となってはどちらだったのかは分かりません。あれから24年の歳月が流れましたが、それ以降野水が出た、という話は聞いたことはありません。都市化、そしてその後の下水道整備により、『平安窪』の下の地下水位は低下し、その結果僕が生まれる以前のような野水を見ることは、これから先難しいでしょう。しかし、24年前の一件が野水であったか否かにかかわらず、直接目撃出来たというのは、その昔野水に苦しめられた方々には大変不謹慎で失礼ではありますが、運が良かったと思っています。

終わりに、古くから小平にお住まいの方は用水路を「川」と呼んでいました。しかし、僕が育った70年代、小平の用水路は完全に汚濁しており、僕達男の子は「ドブ」と当時呼んでいました。そんな「ドブ」でしたが、僕の心の中には思い出が一杯詰まっているのです。21世紀の今日、清廉な多摩川の原水が流れる小川用水等を見ると実に感慨深いものがあります。また何時か、機会がありましたら、今度は友達達と一緒に遊んだかつての「ドブ」についても記してみたいと思っています。

最後まで、拙い文章を読んで頂いて有り難うございました。



編集後記



あつと言ふ間的一年でした。そのくらい活動が多岐に亘り多岐だったのですが、充実感があります。それは、公の活動が見えたことにもよりますが、『用水路をせせらぎとして復活させる』運動が多くの方の賛同を得ているということが実感出来たせいでもあります。特に、これまで隔たりがあった地元の方々との交流が実現したことは大きな喜びでした。前となく、『やっとな自分も小平の民』という気分です。

それと、活動を通じて会の関係者だけでなく、『小平子育てネットワークるるん』や福氏など多くの方との意気投じたことも素晴らしいことでした。彼等と交流を持てたことで私達の視野も広まり、教えられることも多くありました。今後も活動を続けていく中で多くの実のある出会いが持てたいと願います。

『水と緑Message』も6月号を迎えました。編集担当とは名ばかりで、実際は期日に追われて原稿を切り貼りしているのが実情ですが、水と緑に関心を抱く会員達の熱い思いが伝わってくると思っています。(薫)



ホタル・蛍・ほたる



小平を昔のような蛍の飛ぶ街にしたい。その思いから、用水に蛍を定着させるためのプロジェクトを立ち上げました。と言ってもまだ第一段階で、まずは蛍の餌のカワニナが用水で繁殖するか否かを実験中です。

赤ヘル被って愛車ビアンキにまたがり、国立市の矢川までカワニナを取りに行くこと数回。用水の流れが速いので、バラけたカワニナを追跡調査するのも大変でしたが、何度かやっている内に、カップルになっているものも目につくようになりました。

来春が楽しみです。蛍に興味のある方、是非力を貸してもらえませんか！！

問い合わせ・連絡先 TEL/FAX 042-345-6772 馬場

Email bbdana@fc5.so-net.ne.jp

HP <http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>